

あなたは「いつ」「どこで」「どんな」最期を迎えたいですか？

医療法人 今村クリニック 院内報

2014年、厚生労働省がACP(Advance Care Planning)という概念を提唱しました。日本では「人生会議」という言葉でも知られています。これは、「人生の最期をどこで、どのように過ごしたいか」を、ご本人・ご家族・医療者などが事前に話し合っておく取り組みです。この取り組みの中で、「最期は自宅で過ごしたい」と希望する人が、6割以上にのぼるという調査結果があります。

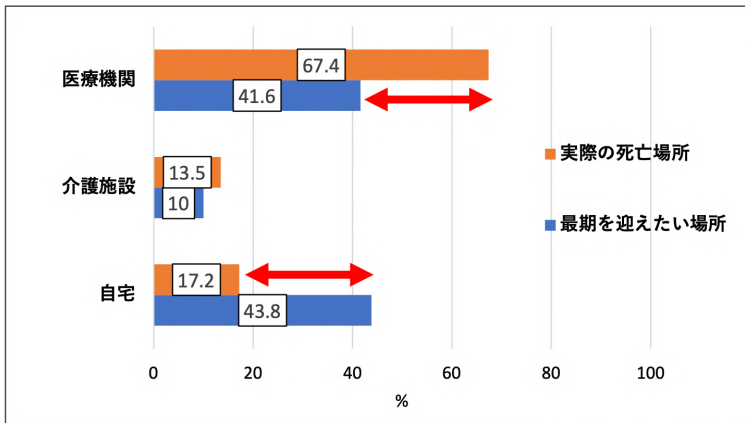


図1 終末期における療養場所の選好と実際の死亡場所の乖離  
(厚労省 2021年人口動態調査, 2022年<sup>10)</sup>, 同 2012年度意識調査, 2023年<sup>11)</sup>から作成)

患者様自身に意思確認ができる時に、「これからどんなふうに生きて、どこで最期を迎えたいか」を考え、周りの信頼できる人に共有しておくことで、可能な限り自分の望む終末期を迎えられます。その大切さを知ってほしい、広めたい。そんな思いから積極的にACPを推奨しています。最後を在宅で過ごしたい透析患者様の場合、腹膜透析であれば、旅立つその最後の日まで在宅透析が可能です。社会・医療資源を駆使すれば、患者様自身やご家族様が透析をせずに、訪問看護さんに毎日施行してもらうことも可能です。血液透析がきつい方、血圧が下がる方、通院が厳しくなってきた方など、気軽にスタッフまでご相談ください。

しかし、希望とは裏腹に多くの方が、最期を病院で迎えています。特に血液透析患者様は、通院が難しくなると、血液透析を継続するために、入院して血液透析を継続する方が多い印象があります。

